

2021年(令和3年)5月7日(金曜日)

♡ 褒め行為発見カード  
 会社員のTさんは、ある管理職セミナーに参加した際、部下育成の秘訣(ひけつ)として「褒(ほ)め行為発見カード」を勧められました。毎日一件、「部下の賞賛すべき行為」とその部下を褒める言葉」をカードに書き込んでいく、というものです。  
 実践を始めて一か月ぐらい経(た)ったころ、Tさんは自分自身の変化に気づいたといえます。  
 “今日は何が書けるかな”と考えるうちに、部下の美点に目を向ける習慣が身についていた

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉  
「ニューモラルの心を育てる言葉366日」  
 のです。そしてカードには、部下の工夫や心配りに対する感謝の言葉が添えられるようになっていました。  
 これを夫婦の間でも応用してみたら、何が覚えてくるでしょうか。日ごろ、相手がしてくれていることは当たり前のように思っている行為の一つ一つに対して、心からの「ありがとう」という言葉をかけたくなくなってもかもしれません。

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
 E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)5月14日(金曜日)

♡ 次の世代に伝えるもの  
 人生の後半期には、前半期とは少し違った課題があります。それは、前半期に培(つ)ちかかってきたものを次の世代に伝え、譲(ゆ)り渡(わた)していくことではないでしょうか。  
 昔は農業・漁業・林業でも、物づくりでも、商売の道でも、親から子へ、高齢者から若年者へと、その仕事の知識や技術、経験や知恵が伝えられてきました。古来、次代を担(た)う若い人たちは、まず親や職場の先輩・上司など、前の世代の人からその経験と知恵を学び、それを真似(まね)て、身につける

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉  
「ニューモラルの心を育てる言葉366日」  
 ことから始めてきたのです。  
 また、次の世代に伝えるものは、仕事や文化ばかりではありません。わが国の歴史や郷土の先人たちの歩み、そして、それらと分かちがたく結びついた一人ひとりの人生の歩みそのものも、重要な要素でしょう。伝える側・伝えられる側が互いを尊重し合い、信頼感を育みながら、これらを大切に譲(ゆ)り渡(わた)していきたいものです。

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
 E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)5月21日(金曜日)

♡ 結婚という「人生の節目」  
 結婚とは、男女二人が夫婦となつて一つの家庭を築き、周囲の人々に認められ、社会の一員として暮(く)らしていくことを意味(い)します。それは、二人にとって人生の大きな節目であるだけでなく、「社会との縁(ゆかり)を結ぶ儀式」でもあるのです。結婚式という「形」の面は時代と共に変化(へん)化(くわ)していますし、人それぞれの選択(せん)択(たく)もあるでしょうが、こうした人生の節目を迎(むか)えるにあつた「心」の側面は、いつの時代も大切に考えたいものです。

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉  
「ニューモラルの心を育てる言葉366日」  
 人は、一人で生きていくことはできません。結婚に限らず、私たちが人生において体験する通過儀礼(とくわうぎれい)はすべて、多くの支(た)えを受けてこの日を迎(むか)えられたことに感謝(かんしゃ)し、その恩(おん)に報(むか)いていくことを誓(ちか)い、同時に周囲の人々との絆(きずな)を確かめ合(あ)ひ、これからの心新たに生きていくための大切な節目といえます。

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
 E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)6月11日(金曜日)

♡今、ここから始まる

「直面する困難を自分のなかでどうとらえるか、そのとらえかた次第で私たちの生きかたは大きく変わってきます。(中略)その境遇にいつまでもこだわるのではなく、『ここから始まるのだ』ととらえ直すことができれば、私たちはかならず前進できます」

これは、百歳を越えてなお現役の医師として活躍し続けた日野原重明(ひのはらしげあき)氏の言葉です(『続 生きかた上手』ユリノグ)。

道徳で人と社会を幸せに

ひとたび生じてしまった事態を「なかつたもの」とすることはできませんが、事態の受けとめ方やその後の対応は、当人の心次第です。つらい体験も含めて、日々の出来事すべてを正面から受けとめ、常に「今、ここから始まるのだ」という心構えで前向きに歩んでいくことができれば、私たちの人生は、喜びや希望に満ちていくことができます。

「ニューモラルの心を育てる言葉」666日

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名:「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)6月4日(金曜日)

♡受け継ぎたい「日本人の心」

三十年前に日本人男性と結婚した、メキシコ出身の女性の話です。

「私が日本に来てすばらしいと思ったのは、子供が大人を尊敬している」と感じたこと。自分の親を大切にするし、言われたことはきちんとして守る。食事のときも、お茶碗(ちやわん)を持って食べる、箸(はし)を正しく持つ、迷い箸はしないなど、いろいろなことを教えるでしょう。そういう中で、日本の文化は受け継がれてきたんじゃないかしら。私も自分の娘には『大人を尊敬するように』

道徳で人と社会を幸せに

「に」と言われて聞かせてきたのよ」ふだんの暮らしの中で、私たち「日本のよさ」を意識することは、さほどないでしょう。しかし、意識しないことで忘れられていく「日本の文化」や「日本人の心」があるとしたら、残念なことです。正直、勤勉、礼節、孝行、他者への思いやり……。先人が守り続けてきたその心を、大切に受け継いでいきたいものです。

「ニューモラルの心を育てる言葉」666日

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名:「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)5月28日(金曜日)

♡「よかれ」という思い込み

ある平日の朝。会社員の昌史さん(29歳)は、手首を痛めている奥さんを感じかた、夫婦二人分の朝食を準備することにしました。一人暮らしの経験もある昌史さんは、簡単な料理はお手の物。気がつかないうちに手づくりの朝食を並べておいて、驚かせてやろう」とも思ったのです。ところが、食事を終えるころには出勤の時間が迫っています。結局、食器の片付けは奥さんに頼むことになってしまったのです。

人のためによかれと思つてす

道徳で人と社会を幸せに

することも、こうすれば相手は喜ぶはず」という思い込みや、相手によく思われたい」という自分本位の考えで推し進めるのは、よい結果につながらないことがあります。相手の立場を、心から思い、どうするのがいちばんよいかという想像力を広く深くはたらかせたとき、はじめて本当の思いやりが溢れ、満ちた行為となり、自他共に喜びを感じることができるようではないでしょうか。

「ニューモラルの心を育てる言葉」666日

「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名:「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)6月18日(金曜日)

♡ 言うは易く、行うも易く、心づかいは極めて難しい  
 よく「言うは易く、行うは難し」と言われますが、モラロジーの創建者・廣池千九郎(ひろいけちくろう) 法学博士、「一八六六〜一九三八」は「言うは易く、行うも易く、心づかいは極めて難し」という言葉を遺(のこ)しています。  
 道端のゴミを拾う、お年寄りを気づかう、寄付をするといった行為は、努力すれば可能でしょう。しかし、それを行うときの心づかいが悪ければ、かえって悪い結果を招くこともあるのです。家庭や職場、地域社会でも、人のために

道徳で人と社会を幸せに

よい行いをしようとするなら、見返りを期待せず、相手の幸せや喜びを願いながら行いたいものです。  
 私たちは毎日、多くの人との関わりの中で善事を行う機会を得ています。その時々には自分の心と向き合い、みずからの人間性の向上に努めていきたいものです。そうした努力が、私たちの人生を必ず豊かなものへと導いていくことでしょ。つ。

「道徳」教科化—ヒントの泉  
「ニューモラルの心を育てる言葉集366日」

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)7月2日(金曜日)

♡ 木を見て森を見ず  
 車の速度が上がれば上がるほど、ドライバーが認識できる視野は狭まります。高速道路上で車を運転しているとき、インターチェンジの合流地点でスッと脇から進入してくる車にヒヤリとした経験がある人も多いでしょう。  
 私たちの心も、それはこうに決まっている。自分には絶対に正しい」という一方的な思いを強くすればするほど、高速道路で運転しているときのように、心の視野が狭くなるのでは

道徳で人と社会を幸せに

ないでしようか。  
 「木を見て森を見ず」というように、一部分だけを見ていると、物事の全体像は見えなくなります。一面的な物の見方は、私たちの思い込みを大きくし、大切な判断を狂わせるのです。自分本位の「思い込み」に陥り、人や物事の実像を見誤つてはいないか—日々、心したいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉  
「ニューモラルの心を育てる言葉集366日」

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)8月6日(金曜日)

♡ 思いやりの心で子育てを  
 親は、よい家庭を築き、子供がよく育ってくれるようにと願うものです。そのために、子供がなくても話せるような家庭の雰囲気をつくり、同時に、よい習慣やきちんとした倫理観を育てよう。こうと努力するのでしょ。目標として思い描く家庭像・家族像に向けて精いっぱい努力を惜しまないのが「親の心」です。  
 ところが、親の「こうあってほしい」「こうありたい」という願いは、知らず知らずのうちに、子でなければならぬ」という、子

道徳で人と社会を幸せに

供への押しつけになりやすいものです。すると親の期待どおりにならない子は「悪い子」「だめな子」になってしまいます。  
 親として子育ての目標を描き、それに向かって努力するのは尊いことです。しかし、たとえ目標が素晴らしいものであっても、それを実現していくためには子供への「思いやり」が必要なのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉  
「ニューモラルの心を育てる言葉集366日」

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
 道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
 公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)8月27日(金曜日)

♡ 心の輝きを取り戻す

中高年の心は、思いのほかもろいところがあります。思春期の子供を抱える悩み、職場の人事異動や配置転換などが原因で、それまでの充実感や生きがいがぐらついてしまうのです。まったく自信をなくし、悲観的になってしまつこともあるようです。また、「元の自分に戻りたい」と思うあまり、余計に苦しむという悪循環に陥つてしまうこともあります。そうしたときは、ごちらかという自分のことばかりに心が向いているの

道徳で人と社会を幸せに

ではないでしょうか。視点を変え、自分のことを少し離れて先輩や後輩のこと、また、周囲の人々のことに目を向けてみてはいかがでしょうか。自分が今日を迎えるまでにお世話になってきた人たちの恩に思いを致し、自分の心の中にある「人を育てる心」を発揮していくことで、自分自身の輝きを取り戻すきっかけがつかめることでしょう。

『ニューモラルの心を育てる言葉』3.6.6日  
「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)8月20日(金曜日)

♡ 一隅を照らす生き方

東洋思想の研究と後進の育成に努めた安岡正篤氏やすおかまさひろ 一八九八〜一九八三は、「暗黒を嘆くより、一つの灯火を掲げて一燈(いっとう)を付けましよう。我々はまず我々の周囲の暗を照らす一燈になりましよう。手のとどく限り、至る所に燈明(とうみやう)を供えましよう。一人一燈なれば、萬人萬燈です。日本はたちまち明るくなりましよう。』(安岡正篤「一言」致知出版社という言葉を残しています。社会の現状を嘆くのではなく、

道徳で人と社会を幸せに

自分自身が温かい心づかいを發揮して、自分の身近な「一隅(いちぐう)」を照らす存在になること。これを一人ひとり、より多くの人々が実践すれば、無数の小さな光は、世の中を明るく照らす大きな力となります。さらには、そうした一人の真摯(しんしん)な取り組みが周囲の人々の心を動かして、同じ思いで実践を始めようとする仲間や協力者・支援者が現れてくることもあるでしょう。

『ニューモラルの心を育てる言葉』3.6.6日  
「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)8月13日(金曜日)

♡ 人を変える「言葉の力」

盤珪永琢(ばんけいようたく)せんじ 一六二二〜二六九三が弟子たちと一緒に修行していたとき、親から勘当された悪童が寺に入ってきました。寺に来てからも、その悪行は収まりません。弟子たちは、悪童を破門するよう師に願い出しました。しかし悪童は破門になる気配もなく、ますます悪事を働きます。やがて弟子たちは、ついに「彼を破門しないのなら、私たちが寺を出ていきます」と、師に詰め寄りました。

道徳で人と社会を幸せに

あれば、お前たちが寺を出て行かない。お前たちは寺を出ても立派にやっついていけるが、彼は破門されたらもう行くところがない」と。弟子たちは盤珪(ばんけい)の深い思いやりに気づき、感激に震えました。この様子を陰から見ている悪童は、その後、人が変わったように修行に励んだということです。言葉に込められた深い思いには、人の心をも変える力があるのです。

『ニューモラルの心を育てる言葉』3.6.6日  
「道徳」教科化—ヒントの泉

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**  
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号  
住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。  
公益財団法人 モラロジー 道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1  
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155